函館高専

学校だより　第208号
～2020年　3月号～

【目 次】

卒業・修了される皆さんへ・・・・・・・・・・・・・・・p. 1
卒業生へのメッセージ＆卒業生からのメッセージ・・・p. 2
修了生へのメッセージ＆修了生からのメッセージ・・・p. 7
留学生からのメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・p.10
各種大会・コンテスト等での活動・・・・・・・・・・・p.11
各種講演会等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.15
春潮寮通信！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.17
教育関連・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.18
退職される先生から一言・・・・・・・・・・・・・・・p.19
函館高専地域連携協力会コーナー・・・・・・・・・・・p.20
人事異動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.21
フォトアルバム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.22

独立行政法人国立高等専門学校機構
函 館 工 業 高 等 専 門 学 校
National Institute of Technology (KOSEN), Hakodate College

「卒業・修了される皆さんへ」

校長　但野　茂（ただの　しげる）

本科卒業の皆さん，専攻科修了の皆さん，おめでとうございます。すべての教職員とともに，心よりお祝い申し上げます。

皆さんは本科及び専攻科の教育課程を全てクリアし，函館工業高等専門学校を卒業・修了するわけです。実に根気強く頑張ったことと思います。中学卒業後，工学の専門教育を５年間一貫で学び，実践的かつ創造的技術者に育成するところが工業高等専門学校です。産業構造の変化や国際化の進展など，社会や経済の変遷を経てもなお，産業界のニーズに応える高度な工学的専門人材の育成が求められており，高専教育に期待されています。その期待はますます高まっており，高専で学ぶ専門教育の内容も一層高度化しています。函館高専は，全国レベルの高専教育をここ函館の地で実践し，そして先導して来た学校です。これまで社会で活躍する数多くの卒業生を送り出しています。皆さんは，見事に学校の期待に応えてくれ，そして卒業・修了に至りました。

皆さんは，これまで多くの人に支えられ，そして助けられて，今日の卒業・修了を迎えたわけです。ご家族や支えてくれた周りの方へのご恩や愛情を決して忘れてはいけません。皆さんを直接教育・指導してくれた先生方への敬愛の気持ちも忘れないでもらいたいと思います。

皆さんは，ここで，たくさんの良い思い出を周りの友人と一緒に作ることができました。ここで得た友人は，かけがえのない一生の財産です。これからもお互いに高め合い，そして大切にして下さい。

皆さんにとっては，卒業がスタートとなります。一所懸命勉強して身に付けた知識とスキルが，必ず皆さんの力になってくれ，そして皆さんを支えてくれます。大学に進学する皆さん，専攻科に進学する皆さん，就職する皆さん，函館高専で学んだこと，そして卒業したことを誇りに思って下さい。これからも自己研鑽に励み，次のステップを高く駆け上がって下さい。

これからの世界は変化の激しい予測困難な時代です。多様化し，グローバル化の波の中で新たな時代を築くのは，まさに皆さんです。状況に応じて必要な知識・能力を自ら修得し，社会を支える原動力となるよう，皆さんの活躍を大いに期待しています。

「卒業生へのメッセージ＆卒業生からのメッセージ」

「機械コース卒業生に贈る言葉」

第5学年生産システム工学科機械コース担任　本村　真治

生産システム工学科機械コース３期生の皆さん，そして保護者の皆様，ご卒業おめでとうございます。自分の子供よりも若い世代の学生たちと上手く付き合っていけるのか，少しだけ心配していましたし，至らぬ所も沢山あったのですが，学生さんや保護者の皆様のお陰で担任業務を全うでき，本当に感謝しています。そして，皆さんを卒業生として送り出せることを心から嬉しく思います。

さて，皆さんはこれから，これまでとはまったく違う新しい環境へ飛び込むことになります。これは，自分を大きく変えるチャンスです。こんな機会は長い人生の中でも，そう何度もあるものではありません。周りは新しく出会う人ばかりなのですから，今までの自分はこうだったからとか気にせず，内に秘めていた自分らしさを存分に表現してください。ただし，周囲への気遣いは常に基本で，自己主張とのバランスが肝心です。少しずつでも良いので自分自身の成長を感じながら，幸せな人生を歩んでくれることを願っています。ただ，仕事でもプライベートでも，乗り越えられそうもない壁を感じたら，無理せず，立ち止まったり，戻ったりしてみることも必要だと思います。そんなときには，是非，顔を見せてください。上司の悪口や昔話をするだけでも息抜きになるかもしれません。遠慮はいりません。函館高専は皆さんの母校なのですから。

最後に，「本気」という言葉を贈ります。これは，ある企業の社長さんから頂いた色紙に書かれていたもので，今も私の目の前に貼ってあります。

『本気』　本気ですれば大抵のことができる
　　本気ですれば何でもおもしろい
　　本気でしていると誰かが助けてくれる

「伝えたいこと」

第5学年生産システム工学科機械コース　髙橋　治弥

私が伝えたいのは考え方です。高専在学中に得た私の意見なので，知らない先輩がなんか書いてたなと心のどこかに引っかかってくれたらと思います。

物事を考える時に「肯定人間」と「否定人間」を心の中に用意して第三者としてこんな考えもあるんだと考えると見方が変わります。これを頭に入れて私の文章を読んで考えてみてください。

正解は近道でたどり着きたいですよね。間違えたくないし。でも，私の場合は「正しく進んだ道より迷った道の方が間違えない。遠回りした方がいろんな経験をすることができて得るものが多い」と考えてます。近道だけが良いものじゃないと思いませんか？

人は失敗をし，恐れる生き物です。頭の良い人や歳をとった人でも失敗をするものです。

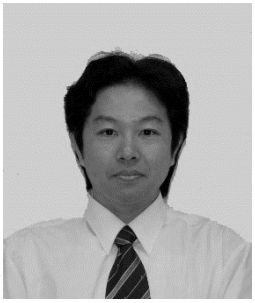
皆さんは完璧人間ですか？失敗をすることは遠回りをして何かを得ることができたということ。これから生きていく過程で，誤が正になったり正が誤になったりと巡り巡って，あの時の失敗のおかげと考えることが出来れば，その失敗は成功じゃないですかね？

「100 点より 100%」で行動に起こすことが大切なのです。結果は後からついてきます。

さて，どうでしたか？

「卒業おめでとう」

第5学年生産システム工学科電気電子コース担任　湊　賢一



生産システム工学科電気電子コース第３期の皆さん，ならびに保護者の皆様，ご卒業おめでとうございます。２年生の時は副担任として，３～５年生では担任として４年間クラスに関わらせて頂きました。皆さんはこれから就職・進学し，様々な事に直面していきますが，常に感謝の気持ちを忘れないように心がけてほしいと思います。今年度，私は「自分を責めないこと」，「笑える余裕を持つこと」，「悩みすぎないこと」，「気持ちに正直であること」，「よく食べよく寝ること」，「誰かの味方であること」，「謙虚さと感謝を忘れないこと」，「お疲れ様と自分に言うこと」を意識して，様々な外乱・内乱に対して日々，なんとかバランスをとって過ごしてきました。皆さんも，人への感謝の気持ち，挑戦の日々を送っていくためには心身の健康が最優先の条件になります。健康には十分に気を遣い，今後大きく羽ばたいてくれることをお祈りいたしております。

「卒業にあたって」

第5学年生産システム工学科電気電子コース　阿部　朔之介

「単位は，命より重い。」そんな悪魔的な発言をクラスで耳にした今日この頃，５年間も早いもので私たちも無事卒業を迎えられます。（多分）

さて，私の高専５年間を学年ごとに簡潔にまとめると，１年生「寮の奴隷」，２年生「？」，３年生「１日ゲーム８時間」，４年生「ラグビー」，５年生「社会人サッカー，バイト，卒研，骨折…」このような感じです。入学して大きく環境が変化した１年生の頃の記憶は，今思えばどれも楽しいものばかりです。それとは対極に，環境に慣れ行動に大きな変化のなかった２年生と３年生の記憶は鮮明ではありません。そして４年生と５年生，ラグビー部入部など，他にも数えきれないくらい新しい変化がありました。変化が一番多かった５年生がやはり私の中では一番充実していたと思います。

これらの経験を経て，私が大切だと感じた力は，「変化を恐れない力」だと思います。この力は，実践するか，しないか…単純に言えばそれだけです。この力を最大限に生かすには感情的な反応に身を委ねて受け身で行動するのではなく，自分の行動に責任を持つ意識が大事だと思います。在校生の皆さん，変化を恐れずに残りの高専生活を充実するものにして下さい。

「情報コース 卒業生に贈る言葉」

第5学年生産システム工学科情報コース担任 小山 慎哉

情報コース３期生は 34 名在籍で，就職希望が 19 名，進学希望が 14 名，その他１名です。今回の進路選択傾向としては，まず進学者の割合（約 40%）が昨年に比べて大幅に増えました。大学で AI 系の勉強をしたいとか，デザインについてもっと学びたいなどの意欲を持つ学生が多く，進学者全員がそれぞれ明確な意思をもって進学を希望しており，更なるキャリアアップが期待されます。

一方，就職活動において，学校に来ている求人から探す，という従来のスタイルから脱して，自身のやりたいことを求めて果敢に自由応募で挑戦した学生が多かったです。

また，対外的な活動に積極的な学生が多かったことも印象的です。ロボコン，プロコン，Yahoo!主催ハッカソン，SDL アプリコンテストなど，校外で開かれるコンテストで活躍をしたほか，バイト先，ボランティア，各種イベントなどにおいて，本クラスの学生が大学生や社会人とコラボレーションする機会も多くありました。

以上のような積極性およびそこで得られた経験，人脈などは，今後の人生において大いに役立つものと思います。卒業生の皆さんには，先々の進路において，有意義な経験を積み，卒業後も幸せな生活を送れることを願っております。

「情報コース 卒業生からのメッセージ」

第5学年生産システム工学科情報コース 鳥山 英峻

こんにちは，情報コース学級代表（雑用）です。この原稿の執筆時は，５年生は卒研に追われるそんな時期となっていますが，この文章が載せられている頃には僕の研究が終わっていると信じて今この文章を書いています。

学生生活の５年間を通じて，学力，技術力はもちろんですが，「与えられた課題を協力して解決する」という力が一番ついたのかなと感じます。３，４年生では生産システム工学科３コースが一つのものを作るという，あまり他の学校では学べないような実践的なチームワークを求められました。複数人で開発するので，方向性の違いや，他コースとの知識の違いで班の雰囲気がピリピリすることも多々ありました。一番辛かった授業でもありますが，協力して出来上がった時の達成感は他の授業と比べものになりません。僕はこの授業を通して技術的な知識だけでは力不足だと痛感しました。

このような経験をして５年生になり，社会人を目前にして，自分が考えている以上に世の中では協調性が求められているのだと改めて感じています。まだ経験の浅い学生の言葉かもしれませんが，在校生の皆さんはこの学校の５年間で友達と協力して，ひとつのことを完成させる経験をぜひ大切にしてください。

「ご卒業おめでとうございます」

第5学年物質環境工学科担任　寺門　修

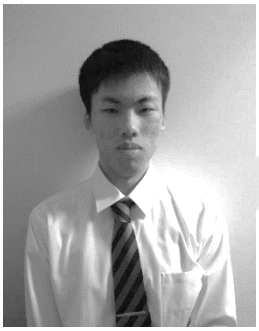
物質環境工学科３期生の皆さん，保護者の皆様，ご卒業おめでとうございます。私が本校に赴任した年に入学した皆さんを，甚だ頼れぬ担任でしたが無事送り出すことができて，安堵しております。

これから進学する人は大いに勉強し，就職する人はすぐに辞めたりせず仕事に邁進してください。進路先でいろいろなことがあるでしょうが，周囲に頼りながらも自分で考えることを忘れずに成長し続けてほしいです。私自身，学生の呼び出し依頼があまりに多く，学生呼び出し用掲示板を設置したら済むのになどと諸々の担任業務の愚痴を周囲の先生にこぼした折に，「大したことじゃない，すぐに慣れるよ」とアドバイスをもらいました。継続によって慣れる日が来る一方で，慣れないとか辛いなどの仕事や勉強への思いを忘れてはいけないと思っています。他者への気遣いや，新しい仕事・学問のアイディアにつながるかもしれません。私自身，皆さんのおかげで少し成長できたかなと思っております。

最後に，「偉くなって恩返ししろ」と脅迫めいたことを言ったこともありましたが（成長してませんね），これから新たなステージに進まれる皆さんを心から応援しています。

「物質環境工学科　卒業生からのメッセージ」

第5学年物質環境工学科　山下　将大



「高専は特殊！」と言われますが，学級を見渡すだけでも「十人十色」という言葉の枠にはまらないほど多様でした。他学科や他学年へと視野を広げるとなおさらで，函館での学生時代は貴重であり，学級や他学科，他学年および課外活動，寮生活などを通して多少なりとも関わっていただいた方々すべてに感謝しています。

さて，私は物質環境工学科を卒業しますが，５年間を見返すと，学科での出来事，専門科目の内容よりも，英語にまつわるエピソードのいくつもが鮮明に思い出されます。おそらく，「英語」という要素を失うと，他者に比べてパッとしない私の学生時代は希薄になって，さらに色あせてしまうからだと考えます。中でも英語プレコンの思い出が強く思い起こされます。そして，ここまで英語に熱中することができたのは，英語科の先生方の支えがあったからこそで，本当に感謝しています。

最後に，在校生の方々に対するアドバイスとして，５年間という貴重な時間の中で自ら終止符を打つことのないように，私が英語に打ち込んだように，何か一生懸命なれるものを探してほしいです。そうすると，高専特有の中だるみとか，やる気のなさから抜け出すことができると思います。

「縁(えにし)の糸」

第5学年社会基盤工学科担任　永家　忠司

社会基盤工学科第３期生の皆さん，そして保護者の皆様，ご卒業おめでとうございます。とうとうこの日がやってきたというのが正直な気持ちです。初めての担任ということもあり暗中模索でやってまいりましたが，多くの方々の協力を得ながらあなた方と無事卒業を迎えることができました。この場をお借りして感謝申し上げます。２年副担任から今日までたくさんの思い出を皆さんから頂きました。中には原級留置や進路変更で私の手から離れる人も少なからずいましたが，彼らのことを含め，それらの思い出を心の糧に今後生きていたいと思います。ところで皆さんは高専での学生生活を過ごす過程で十分に成長することができたと自負できるでしょうか？函館高専に来て８年が経とうとしていますが，皆さんと過ごした濃密な時間は少なくとも私自身を成長させてくれたと自信をもって言えます。担任として関わったのは数十人ですが，君たち一人ひとりから得ることができた経験は私にとってかけがいのないものです。本校で出会ったことは，これまでのお互いの行動，決断において生まれたものであり，縁の糸でどこかで繋がれていたのかもしれません。それは級友も同様です。卒業しても互いに助け合い，ときには愚痴を言い合い，励まし合う。せっかく見つけた縁の糸。今一度意識してみてはいかがでしょうか。

「旅立ちは煌めいて from DIVAID」

第5学年社会基盤工学科　木村 圭吾

未来の自分へ，この本が配布されているときにはあなたは卒業していることでしょう。（きっと）そして，新生活へ向けいろいろと準備をしている時期でしょうか。

私にとっての高専での５年間には喜怒哀楽のいろいろな思い出があります。３年生まで入っていた寮では特にたくさんの思い出があります。まず，一番最初の同室が DQN YouTuber だったこと，入寮して早々に共同生活の難しさを痛感しました。そして１年生の時の理不尽な指導があったからこそ今いろいろな辛いことにも耐えられていると思います。指導最高！！

そんな苦境をともに乗り越えた寮生の友達と毎晩やったスマブラ，人狼ゲーム，カタンは本当に楽しかったです！

ハンドボール部では本当に先輩後輩同学年に恵まれたと思っています。中学校の時にできなかったいろいろな遠征をさせてもらえたり，多くの経験を積ませてもらえました。顧問の先生方にも改めて感謝いたします。そして，担任として支えてくれた山下先生，タケ先生，そして一緒に旅立つ永家先生本当にお世話になりました。最後に３×２年間，因縁の構造力学でお世話になった渡辺力大先生ありがとうございました。

P.S　単位は大事！顔がやばい

「修了生へのメッセージ＆修了生からのメッセージ」

「生産システム工学専攻 修了生に贈る言葉」

専攻科第2学年生産システム工学専攻連絡担当教員 山田 一雅

修了おめでとうございます。研究活動含め，全てによくぞ頑張りました。これらの経験は，きっと皆さんの今後の糧になることでしょう。

私ごとで恐縮ですが，専攻科の２年生の連絡担当教員は，私の教員としての長年の夢でした。しかし残念ながら今まで一度も叶いませんでしたがこのたび縁があって感謝しています。

日記を見ると３月 25 日から，全力で就職の指導（履歴書添削）にあたっている記述があり，今思い返すとびっくりです。夏休みの８月 15 日ころにも，学生さんとの面接練習をしており暑さの記憶とともに懐かしいです。

専攻科を修了する皆さんは，賽の目の旅のようなPBL テーマとの格闘など，多くの壁を乗り越えてきましたね。ご苦労様。そして社会に出てからも，新しい壁に挑み続けてください。これらに対峙して自己スキルを向上していってください。

はなむけの言葉として，北海道旭川出身の三浦綾子さんの作品から人生をプラスに考える文章引用です（抜粋）。

時知りてこそ 世の中の 花も花なれ 人も人なれ

では，健康に気をつけて，これからの人生を頑張ってください。困ったときは相談に来てくださいね。函館で待ってます。Cheers!

「修了にあたって」

専攻科第2学年生産システム工学専攻 村井 竜也

私は平成 25 年４月に入学し，高専生活７年になります。本科の５年間では生産システム工学科の機械コースに所属し，工学の知識を勉強してきました。専攻科ではそのくくりはなく，生産システム工学専攻に属する機械・情報・電気の科目を修得してきました。そんな私ですが，来年からは就職の為，石川県に赴きます。実際には，就職活動は思うようにいかず，選考で落とされてしまい，気持ち的にも絶望した気持ちになることもありました。そんな状況で多くの先生方が相談に乗ってくれ，親身になって私の性格を考慮したアドバイスをくださり，大変救われました。また，本科の時には大学編入学試験に失敗し，専攻科に入学しましたが，結果的にはいいこと尽くしでした。親への学費等の負担も少なく，精神的にも常に安定した状態で学生生活を送れたこと。先生方との良好な関係を築けたことや充実した研究環境など私にとって適切な環境でした。在校生の中には就職活動や進学の壁にぶつかる人もいると思います。その時は自分の信頼できる先生・友人に頼り，いろんな意見を聞くことが重要だと考えます。

これまでの高専で得てきたものを活かし，自身の向上に努めていきたいと思います。７年間ありがとうございました。

「修了生に贈る言葉」

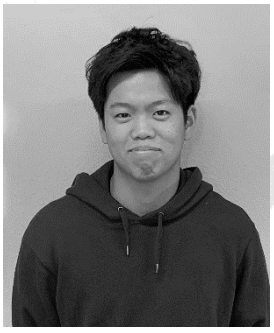
専攻科第2学年物質環境工学専攻連絡担当教員　松永　智子

修了生の皆さん，ご修了おめでとうございます。専攻科での２年間はどのようなものだったでしょうか。座学の授業もある中，１年目にはPBLやインターンシップ，そして２年目には本格的な特別研究と，あっという間に修了を迎えたと感じているのではないかと思います。我々教員にもあっという間の２年間でしたが，そのような中，新専攻科の第一期生としてしっかり実績を残してくれた皆さんには，本当に感謝しています。

いよいよ，長かった”高専”での生活にも別れを告げ，４月からはそれぞれが全く新しい道を歩むことになります。楽しみですね！なんだか，何でもできそうな気がしてきますね！実際に，そんな人生のステージを皆さんは迎えています。しかも世界の変化のスピードは恐いくらいに加速していて，うかうかしていると押し寄せてきた未来に飲み込まれてしまう，そんな時代に，一番ノッてる人生ステージをぶつけられる！なんて羨ましい！！そういうわけで，どうか自分を信じて，精一杯頑張って，いろんなものを勝ち取って，自分たちのよりよい未来を創って行って欲しいと，切に願っています。頑張ってね！！

「専攻科での2年間を通して」

専攻科第2学年物質環境工学専攻　宮崎　碧



私は，本科と専攻科合わせて函館高専に７年間お世話になりました。この７年は非常に長く，正直飽きました。専攻科に入学するときには，周りに「専攻科行く必要ある？」とも言われました。そんな私ですが，今では専攻科で学べて良かったと感じています。

まず，専攻科では，３週間のインターンシップがあります。本科とは違い長期で行うため，働くことに対しての理解がより深まり，就活のときに役立ちます。

また，企業と連携して課題解決に取り組むPBLでは，自分たちの知識をフルで活用し問題に取り組むことで，創造力を養い，自分の分野外の新しいことも幅広く学ぶことが出来ます。

そして，この２年間は，PBL 発表，特別研究発表，学会発表，英語プレゼンなど発表する機会が多くありました。そのため，何度も発表を繰り返していると，自然とプレゼン力や資料の完成度は上達していきます。本科では案外発表する機会が少ないため，専攻科で慣れておくのもいいかもしれません。

このように専攻科で様々な経験を積んだおかげで自分自身成長することができました。

最後になりますが，７年間の高専生活の中でお世話になった方々に，この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

「専攻科修了 おめでとうございます」

専攻科第2学年社会基盤工学専攻連絡担当教員 菊池 幸恵

専攻科修了生の皆様ならびに保護者の皆様，おめてどうございます。社会基盤工学専攻第１期生として，いといろと大変な思いや新しいこともチャレンジしつつ，全員が一生懸命に取り組んできたと思います。これからは，大学院進学でさらに学問に打ち込む人や企業に就職して社会に羽ばたく人，それぞれの進路があります。その未来は困難な道かもしれないし，バラ色な道かもしれません。しかし，専攻科の授業やインターンシップや特別研究や PBL 授業，学会発表などを乗り越えてきたのです。これら専攻科で培った知識だけではなく経験や度胸は，これからの未来を切り開くためにはとても重宝します。でも，これらは自分自身だけで身につけたものではありません。保護者の皆様や本校教職員，そして本科や専攻科の仲間たち，他にもたくさんの人たちに支えられてきました。そのことを忘れずに常に感謝の気持ちを持って，さらにたくましく羽ばたいてほしいと心から願っています。

「道端で巨漢に襲われそうになったら」

専攻科第2学年社会基盤工学専攻 金浜 瞳也

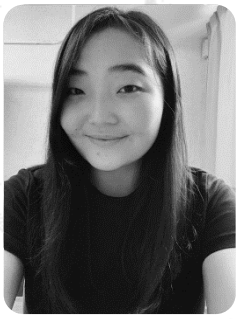
７年前，入学したての私たちは，いわば丸腰の状態でした。確かボブサップだったように思うのですが，「偶然出会ったボブサップに道端で襲われたら，迷わず武器を使え！」と，ある先生は私たちに説いたことがあります。

「武器」というのは，私たちにとっての「知識」です。ただ，知識や技術は極めて速いスピードで更新されているように思います。いつかボブサップを倒せた武器も，いずれ倒せない武器になってしまうかもしれません。今ある武器に慢心することなく，常に武器を磨くことを怠らず，新たな使い方を試行錯誤していけと，先生は私たちに伝えたかったのかも…しれません。少なくとも私はそう捉え，勉強に対する意識が少しだけ変わりました。

ただ，私がここに記しておきたいのは，勉強の必要性に関する話ではありません。何が自分の意識に影響を与えるか分からないから，貴重な高専生活の中で目を凝らし，耳を澄まして，日々の中で発見する意欲を持って過ごして欲しい！ということです。

「留学生からのメッセージ」

◎第５学年生産システム工学科電気電子コース ウラナー



函館に来て初めての頃は不安しかなく，友達ができるか心配でしたが，クラスメートの皆さんをはじめ寮生の皆さんや高専の先生たちが優しく接してくれたり，分からないことがあったら分かりやすく教えてくれたりしました。そのおかげで函館での生活にすぐ慣れることができました。慣れてから３年間あっという間に過ぎていきましたが，振り返ってみると思い出もたくさんで，成長もできて，本当にありがたい気持ちでいっぱいです。３年間お世話になりました。

◎第５学年物質環境工学科 シャズワニ

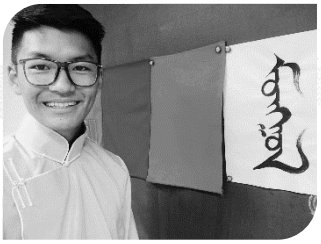
函館に到着し寺門先生が迎えに来たのをまだはっきりと覚えています。その後，同級生や他の留学生と会い，楽しく日々を過ごしてきました。レポートの提出など，卒研やその発表などで大変な時期がありましたが，函館で過ごした３年間は一生記憶に残るでしょう。

函館で出会った先生方，同級生，留学生の皆様，特に，卒研の指導教員がご逝去の後，研究を指導してくれた小林先生に大感謝です。皆様がいないと，私は上手く成長できなかったでしょう。函館で出会った皆様，３年間お世話になりました！

◎第５学年物質環境工学科 ハグワ

函館高専で学び，春潮寮に住んだこの時は私にとってとても明るくて，幸せな３年間になった。函館の夏は涼しくて料理が美味しいからここに来て良かったと思う。私は函館の美しい夜景や皆と一緒に過ごした楽しい時を忘れないで覚えていたい。また，3C に入って初めて会った時からいつも優しくて，何でも助けてくれるクラスの友達と先生たちに出会って良かったと思う。将来皆の人生に明るい笑顔の時間がいっぱいあるように。ありがとう。

◎第５学年社会基盤工学科　エーギー



最初日本に来た時は自分の日本語のスキルに自信がなく日本人と会話することが難しかった。函館高専では専門の授業だけではなく，留学生向けの日本語の授業もあってよかったです。日本語の授業を受けて日本の文化や習慣を体験することが出来ました。分からないことがあっても，優しく教えてくれる友達ができたことが一番幸いなことだったと思います。今年は行われてないが，道内の各高専の留学生交流会というイベントがありました。留学生向けの一番大きいなイベントだったのでこれからも行われたら良いと思います。

最後に色々教えてくれた先生たちに感謝を申し上げます。

各種大会・コンテスト等での活動

HAKODATE アカデミックリンク 2019 で優秀賞を受賞しました

令和元年 11 月９日（土）に，キャンパス・コンソーシアム函館主催による「HAKODATE アカデミックリンク 2019」が北海道教育大学函館校で開催されました。これは加盟機関による合同研究発表会で，函館市内の高等教育機関などから全 73 チームの参加がありました。

～優秀賞を受賞した『チーム MINA 海』～

本校からは，（以下，チーム名『発表タイトル』）

・AgriTech NITHC『農業系ビッグデータ取得システムおよびアプリケーション開発』
・ProjectWinter『Poprop』
・チーム MINA 海『真昆布を原料にした海苔作り！』
・GIS 研究室『津波災害時における降積雪を考慮した避難時間の変化に関する研究』
・CAFÉ YAMADA『ディジタイジングによる生体形状の３次元プリンティング』
・チーム「伝統工芸を新たなステージへ」『工学技術による沈金による表現の新提案』
・流体工学研究室『マグナス効果を知る！』

の７チームが参加しました。

参加した学生たちはパネルや成果物を活用しながら，とても熱心に日頃の研究内容や成果を説明していました。

審査の結果，『チーム MINA 海』が優秀賞，『GIS 研究室』が特別賞をそれぞれ受賞することができ，受賞チームの学生たちは，歓喜とともに今後も一層研究に励むモチベーションに繋がった様子でした。

（記：テクノセンター 剱地 利昭）

デザインコンペティション 2019 in 東京 AM デザイン部門に参加しました

デザインコンペティションは，令和元年 12 月７日（土），８日（日），大田区産業プラザ PiO コンベンションホールを会場として実施されました。「デザインコンペティション」（通称：デザコン）は，全国の高等専門学校で競われるロボコン（ロボットコンテスト），プロコン（プログラミングコンテスト）に続く，第三の競技です。このデザコンには，４つの部門（空間デザイン部門，創造デザイン部門，AM デザイン部門，プレデザイン部門）があり，私達は，AM デザイン部門に参加しました。AM はアディティブ・マニュファクチュアリング（Additive Manufacturing）の略で，付加製造とういことで，従来の削ったり，切ったりするものづくりに対して，ゼロから加えるものづくり方法，主として三次元（3D）プリンタによる製造技術を指します。この 3D プリンタだから実現できる，自由な発想に基づく独創的なアイデアについての競技会です。一昨年度の 2017 年の大会では，本校が最優秀賞（経済産業大臣賞）を受賞しております。

～製作メンバー～

今年は，「社会的弱者に向けたスポーツ支援アイテム開発」がテーマであり，新たなアイテムを３D プリンタによる造形技術を活用した製品開発が課題となりました。全国高専で 20 チームが参加し，提案シートにより予選評価され，その予選通過チーム 11 チームにより本選が行われました。この本選では，口頭発表（20 分），ポスター・実物での発表が２日間で行なわれました。

本校からの参加は，次世代デザイン研究会のメンバー６名（3S-M 大清水空，（同）小玉聡悟，（同）千田望美，（同）本谷澪佳，（同）早川友志朗，3S-E 柴田紘希）で製作にあたり，本選には大清水，小玉，

千田，本谷の４名で参加しました。製作物は，「HANA」というタイトルで，水泳の，鼻で息を吐いて，口で吸う，という方法を補助するために，鼻からは息を吐けるが入ってこないという機能をもったアイテムをデザインし，3D プリンタで製作しました。3D スキャナで人の鼻を測定し，その人にフィットする形状とすること，水が逆流しない機能を有することがポイントとなっております。新規性・独創性，実用性，事業性，活用性，プレゼン力，相互投票により審査され，新規性・独創性においては高い評価を受けたものの，実用性が低く，残念ながら入賞することはできませんでした。

このデザコンを通して，いままで経験したことのないポスター製作・口頭発表を準備すること，大勢の人にアピールしたい箇所などを分かりやすく説明することことによるプレゼンテーション力，考えたものから実際のものを作り出す創造力・デザイン力，そして，作成過程にどんどん出てくる問題点をメンバーで討論し，答えをだしていくコミュニケーション力・問題解決力など，いろいろな力を向上できたと感じております。

（記：次世代デザイン研究会顧問 山田 誠）

～上:ポスター発表　下:口頭発表～

～ポスター～

Hack Day 2019 に参加しました

令和元年 12 月 14 日（土）から 15 日（日）かけて，Hack Day というイベントに，情報コースの３名の学生が参加しました。Hack Day とは，Yahoo! JAPAN が主催している，24 時間でものづくりをする，日本最大級のハッカソンイベントです。令和元年９月４日（水）に仙台市で開かれた，"Hack U SENDAI" にて最優秀賞を獲得することができ，今回の Hack Day に招待していただきました。

Hack U Sendai は学生限定で８チームでしたが，Hack Day は社会人も含めて約 70 チームが参加する大規模イベントだったので，緊張しました。

そうした中，私たちは「全人類お嬢様化計画」という，世の中の言葉をお嬢様言葉に変えてしまう Google の拡張機能を制作しました。短い時間の中で，アイデアを考え，工程を決め，完成させるというのは，とても難しかったですが，その分学ぶものも多かったです。また，発表後に「面白い」と声掛けしてもらえるなど，嬉しいことがありました。

また，発表が特に難しかったです。制作物の魅力，デモ，使用技術を発表するのに，90 秒では正直足りませんでした。他のチームは端的に伝え，さらに面白く素晴らしいものだったので，もっと改善できたのではないかと思います。

今回のハッカソンで，社会人のレベルを知ることができたので，今後も色々なイベントに出て，来年は賞を取れるように成長していきたいです。

（記:第５学年生産システム工学科情報コース 吉田 拓夢）

第 50 回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会に参加しました

～ラグビー部のメンバー～

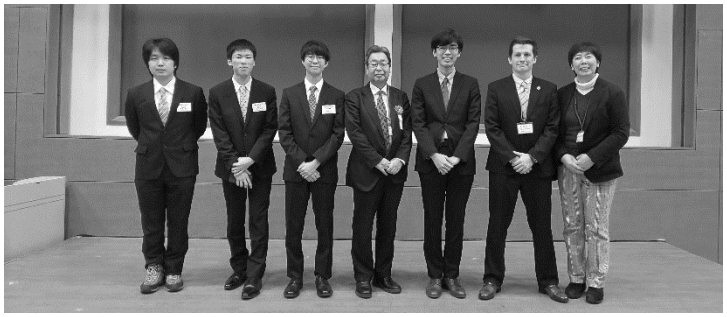
今年は地区予選でこれまでにない苦戦を強いられ，３点差でなんとか勝つことができ，神戸で開かれた第 50 回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会へ出場することができました。今回は第 50 回の記念大会で例年の 10 チームから 12 チームの出場で行われ，会場はラグビーWC が終わったことで神戸のユニバーシアード記念競技場に戻って開催されました。

今年も暮れに函館を出発して神戸高専のグラウンドを借りて部員の少ない中，何とか練習を積み全国大会に備えました。１月４日の１回戦は関東・東海・北陸第２代表の豊田高専が相手でした。前半は０対 15 と逆転可能な点数で終えることができ後半へ期待の持てる内容でした。しかし，今年は練習試合をする機会が少なく経験の浅い選手が多かったため，後半にはスクラムの弱さ，タックルの甘さ，攻撃のミスが続き思うように試合ができず，逆に相手に簡単に得点され，結局，０対 51 と大敗してしまい，今年も悔しい結果となりました。

メンバーが揃わず思うような練習ができないため，まずは部員集めから始めて，創部 55 周年を迎えた函館高専ラグビー部の栄光を取り戻すことができるようまた頑張りたいと思います。

（記：ラグビー部顧問 浦田 清）

第 13 回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストに参加しました



～函館高専全員で記念撮影～

令和２年１月 25 日（土），26 日（日）の２日間にわたり，国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 国際会議室において開催された，第 13 回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト（プレコン）に，シングル部門に 3S-J 橋場君，チーム部門に 4Z 飯田君・5C 山下君・1AC 田中君が出場しました。橋場君は，“Distance Between Me and the World”というタイトルで，イタリア短期留学で感じた店員さんとの距離感，体験から得られた新たな視点についてプレゼンし，チームは，”Aiming for a better society with ICT: what can we do as digital natives?”というタイトルで，デジタル機器を活用しつつ，積極的なマインドを持って日本にやってくる海外留学生等を支援できるとプレゼンしました。彼らの健闘むなしく入賞を逃しましたが，チームは特別賞（日本工業英検協会会長賞）を頂戴しました。

（記：プレコン指導教員 奥崎 真理子）

～シングル部門～

～チーム部門～

プレコンに参加した学生のコメント

◎第４学年社会基盤工学科 飯田 吟太 （チーム部門）

今回のプレゼンの内容は，外国人観光客や労働者，留学生が増加している日本社会で，彼らが困っていることを既存の ICT と，一歩踏み出す勇気を持つことで解決していこうというものである。今回の大会のトレンドはシングル部門，チーム部門に関わらず，スマートフォンや旅行などについてのトピックであった。函館のプレゼンはその中でも，オーディエンスに考えさせる内容が多かったため，上位に入賞したプレゼンと比べるとエンターテイメント性に欠けてしまった。しかし，実際の調査に基づいたプレゼンであった点，実現可能なアイディアを盛り込んでいた点を工業英検の方に評価してもらい，見事 2 年連続での日本工業英検協会会長賞受賞を果たすことができた。またある審査員の方からも，内容とプレゼンの技術どちらも１番良かったと評価をいただいたことで，これから次の新しいことにチャレンジする勇気を得ることができた。この経験を今後の活動にさらに役立てていきたい。

◎第５学年物質環境工学科 山下 将大 （チーム部門）

はじめに，３大会連続で全国大会に行くことができて，とても光栄に思います。長期にわたって英語プレゼンテーションコンテストに触れてきましたが，今年度は，最も思い入れがあったように思えます。全国大会に行くたびに新しい発見があるのですが，特に，考え方「Way of thinking」の多様性について深く考え直すことができました。これは，審査員の先生方がどのように感じるのかだけではなく，会場に来ていただいた聴衆の皆様および他高専の選手がどのようなことを考えているのか，といったことを指します。これまでの大会では，とにかく全国大会に行って発表を行うだけで精一杯だったのですが，本大会では，他校の学生のもつアイディアを余すところなく聞くことができ，また，パフォーマンスにも目を向けて大会を楽しむことができました。これは，優秀なチームメイトと支えてくださった皆様のおかげだと確信しています。これまで本当にありがとうございました。

◎専攻科第１学年物質環境工学専攻 田中 太 （チーム部門）

自分にとって，プレコンへの参加は大きな挑戦でした。しかし，チームメイトによるサポートのおかげで，最後までやり遂げることができました。飯田君はアイディアマンで，山下君はマネジメントに長けています。私は大方のスライド作成を任せていただき，それぞれに役割があったと思います。チーム全員が寮生だったので，よく夜に３人で集まって練習をしていました。英語での表現の仕方や聴衆の心理など，プレコンの先輩から多くの事を学びました。大会を終えて，今の自分の力を出し切ったという大きな達成感があります。また，他高専の発表を聴くことで，新しいアイディアに出会い，刺激を受けました。自分の考えを人に伝えるためのノウハウを，少しずつ自分のものにしていきたいです。また，この経験を今後の海外インターンシップなどに活かしたいと思います。チームを支えてくれたタケ先生，協力・応援して頂いた方々，そして，チームメイトの２人に感謝します。

◎第３学年生産システム工学科情報コース 橋場 慧志 （個人部門）

第 13 回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストに参加しました。思い返せば昨年４月に参加しないかとお声がけ頂き，面白そうだからという理由で参加した日から 10 ヶ月間，数多くのことを学べたと思います。内容を考える段階では，プレゼンテーションとしての文章の書き方やテーマ，聴く側の考え方，スライドを作るときには視覚に訴える手段，実際にプレゼンテーションをしてみるときには言語的なこと以外の動作の持つ一つひとつ意味など，実際の講義では確実に学び得ないことや英語に限らない幅広い知見を得る事ができました。結果という形で 10 ヶ月間を締めくくる事ができなかったことは己の実力不足を痛感するとともに他発表者に圧倒されましたが，その発表からもまた学べたことを幸運に思います。末筆ながら，参加するにあたり数多くの助言等をくださった先生方，また函館および福井高専の職員の方に感謝いたします。ありがとうございました。

各 種 講 演 会 等

キャリアイベント『学生×ソフトバンク株式会社×フラー株式会社』を開催しました

令和元年 11 月 22 日（金）に，本校第１講義室において，本校と包括的連携協定を結んでいるフラー株式会社と，ソフトバンク株式会社の共同による，本校本科４年生，専攻科１年生を対象としたキャリアイベントが開催をしました。今回のキャリアイベントは，二社の事業や同社で働くエンジニアの活躍に触れながら，高専の学生の可能性や今後のキャリア形成についての講演を聞くというものでした。

まずフラー代表の櫻井裕基さんによる「卒業して 10 年，今だからこそ想う高専の可能性」という講演でした。主には，同社事業の紹介と，高専生の就活に関してのアドバイスであり，自分で情報を得ることの大切さ，しかし地方在住学生にはそれが難しいので，こういう地方巡回講演で得られた情報は大事にしてほしいということが語られました。また，ソフトバンクの福田幸正さんと木村司さんのご講演は「可能性の最大化」という題目で，福田さんからは就活に関する心構え，木村さんはご自身が函館高専専攻科卒である経験を踏まえた進路選択の話をいただきました。

進路選択を控える学生たちにとって，ベンチャー企業と大企業，それぞれの立場からの話を聞く機会は貴重であり，学生の多くは関心を持って聴講していました。

～講演の様子～

～座談会形式でもお話をうかがいました～

（記：生産システム工学科准教授 小山 慎哉）

半導体・エレクトロニクス業界の理解に関するキャリア講演会を開催しました

令和元年 12 月 13 日（金）に本校第１講義室において，生産システム工学科の４年生を対象に，一般社団法人「電子情報技術産業協会：JEITA」と「日本半導体製造装置協会：SEAJ」の共催によるキャリア講演会が開催されました。これは，AI，ロボット，IOT などを活用して，社会的な課題を解決する新たな社会「Society（ソサエティ）5.0」を実現するためには，技術的な基盤の一つとして半導体技術が重要であり，そこでは大いに高専生の活躍が期待されているという内容で，本校卒業生のキヤノン株式会社大谷様，キオクシア株式会社（旧東芝メモリ株式会社）の浅倉様が事例や体験を講演されました。本校の学生たちには，間近に控える進路選択のうえで，その業界を知るとてもいい機会になったと思います。

～講演会の様子～

（記：キャリアセンター長 小林 淳哉）

クラブリーダー研修会を開催しました

令和２年１月９日（木），第１講義室においてクラブリーダー研修会を開催しました。本研修会では，函館市消防本部救急課の方々を講師にお招きして１～４学年の学生を対象に AED の使い方についてご説明いただきました。私たちが緊急時に遭遇したときに，どのようなことに気を付けて対応すれば良いのか，わかりやすい実演を交えて大変丁寧に教えていただきました。学生からは，AED の設置場所や，機械の使用方法などについて熱心な質問がたくさん出され，実際に使用してみようと考えている気持ちが伝わってきました。研修会終了後講師の先生からは，「流石に高専の学生さんは機械の動かし方などについて専門的で突っ込んだ質問がたくさんありましたね。こちらも勉強になり，来て良かったです。」とお褒めの言葉をいただきました。

～研修会の様子～

（記：学生委員会 丸山 珠美）

男女共同参画推進室主催講演会を開催しました

令和２年１月 10 日（金），「NPO 法人あおもり男女共同参画をすすめる会」より理事長の千田晶子氏，副理事長の篠崎有香氏，会員の橋本尚美氏の３名をお招きし，男女共同参画に関する講演会を開催しました。篠崎氏による学生（第３学年）を対象とした講演会は「あなたがあなたらしく生きるために」というテーマで行われ，これから社会に出る学生の目線にたって，日本における男女格差の現状は世界でも最下位に近いこと，無意識に持っている偏見とそれを乗り越えるために重要なことについて，様々なデータに基づきお話しいただきました。千田氏による教職員を対象とした講演会は「学校教育の力で男女共同参画社会の実現を～ジェンダーバイアスを知る，認める，そして変わる～」というテーマで，学校の環境・教師の言動が，思いがけず学生に男女共同の観点において影響を及ぼしてしまうことなどを，クイズも交えてわかりやすくお話しいただき，大変勉強になりました。また，女子学生サポート室と協力して講師３名と５年生の女子学生との座談会を開催しました。学生，教職員ともに，改めて男女共同参画についての認識を高める大変良い機会となりました。

～講師の篠崎有香氏～

～講師の千田晶子氏～

（記：男女共同参画推進室長 丸山 珠美）

春 潮 寮 通 信 ！

4年生テーブルマナー講習会

～緊張の面持ちで給仕を受ける～

毎年，４年生には社会人となる前の研修の一環として，長い歴史を持つ（創業１４０年），函館が世界に誇る洋食レストラン「五島軒」でテーブルマナー講習会を実施しています。同級生などの披露宴でもフレンチのフルコースという場合があるでしょう。そういったシチュエーションでも慌てず，かっこよく決めてほしいという願いが込められています。

さて，今年度の研修は令和元年 11 月 13 日（水）にレストランのバスとチャーターしたジャンボタクシーを使ってレストランを往復して実施いたしました。正装して食事をする機会はあまりないためか，どの顔もやや緊張しながら席に着きます。最初に五島軒 140 年の歴史と味の伝統に関する動画を拝見した後，担当の方からテーブルマナーの講義を受けました。ナイフやフォーク，ナプキンの使い方と，なぜそのような使い方をするのかという歴史及び実用から生まれたその理由など，私も知らないマナーがけっこうたくさんあり，私自身も勉強になりました。

その後，前菜，スープ，魚料理，肉料理，パン，デザート，コーヒーと伝統の五島軒でのフレンチ・フルコースを堪能しました。１回でマナーを習得するということは難しいかもしれませんが，これが社会人として恥ずかしくない教養を身に着ける機会となってくれることを期待して会場を後にしました。

『春潮寮』寮祭

寮行事の中で，最大かつ最重要行事が寮祭です。今年度は令和元年 11 月 16 日（土）に春潮寮男子食堂で行われました。

～1年生男子寮生による寸劇の舞台～

食事は事前にこんなのが食べたいと業者さんと寮生会とで打ち合わせをしたおかげもあり，例年以上に豪華なものとなりました。中身は唐揚げ，フライドポテト，ローストポークなど若者が好きなメニューが中心で，さっぱりメニューもほしいおじさんが多い寮務委員の先生方にはちときついラインナップではありましたが……。

プログラムの必修科目は１年生男子の寸劇，女子のダンスです。先輩方の誰もが通ってきた道，恥を捨ててプレイヤーになりきることで，本物の寮生になれる？という１種のイニシエーション的な出し物となります。あとは歌自慢のカラオケ，ビンゴ大会などがあります。今年は教員を代表して生産システム工学科機械コースの寮務委員，濵先生が高専祭の前夜祭に続いてその美声を披露いたしました。

（記：寮務主事　泊 功）

教 育 関 連

北海道大学医学部及び北海道大学大学院保健科学研究院との連携教育プログラムについて

急速な人口減少・超高齢化社会が進行している今日，医療や健康，福祉・介護分野の充実は急務で，工学の立場からは，AI，IoT などの情報技術をこれまで以上に医療や健康・福祉の場に適用させ，利用者の視点で研究・医療機器等の開発・設計・製造ができる技術者を育成するが社会のニーズであると考えています。これまでも本校では介護・福祉等医療分野に関係する研究も行われてきていますが，仮に医療機器開発メーカーに就職できたとしても，医療分野の体系的な教育カリキュラムを履修していないので，結局は医療系の装置開発には携われず，保守管理のサービスエンジニアとしての業務が主になっていました。そこで本校と北海道大学医学部および北海道大学大学院保健科学研究院は相互に密接に連携した連携教育プログラム「ヘルスケアエンジニアリングコース（仮称）」を開設することにし，令和元年 10 月 1 日（火）に連携教育プログラムの実施に向けた覚書を取り交わしました。いくつかの高専は，同時期に九州の高専が九州大学工学部と，東京高専が東京工業大学と連携プログラムを提案し，認められていますが，医学部に進学できるプログラムを提案し，認められたのは函館高専と北海道大学医学部とのものが唯一で，他大学・高専さらには産業界からも「高等教育の新しい連携の形」として大いに注目されています。

具体的には，ヘルスケアエンジニアリングコースは，函館高専の５年生を卒業後，北海道大学医学部保健学科（以後単に北大）の３年生に編入学するとともに，専攻科に進学・在籍します。北大の４年生卒業後は北大医学部から学士（保健学）が授与されるとともに，専攻科の修了証も授与されます。詳細なカリキュラムは現在北大と協議中ですが，医療や保健等に関する基盤となる授業を体系的に履修し，合わせて基本的な機械，電気電子，情報工学の基盤と，医療画像の情報処理（画像処理）や，各種の生理データの AI 等による解析など医療・保健等の場への適用（社会実装）するための PBL（課題解決型学習）を組み入れることになります。カリキュラム全体として，卒業後は医療機器の開発を進める企業で医療系の基礎知識を持って開発に携わることができる人材に成長することを想定しています。なお，この連携コースは，北大の１年生に入学し，医学部に在籍する学生もここに在籍し，工学や情報科学の基礎を学ぶことになる予定です。

また，北大卒業後は医学部保健学科の他の専攻（看護学専攻，検査技術科学専攻，理学療法学専攻など）のように卒業後に例えば理学療法士などとして病院で働くことは想定していないので，国家資格受験に必要なカリキュラム構成にはなりません。

今後のスケジュールとしては，現在の本校１年生に対して，令和５年度入試，令和６年度編入学を目指しており，１～２年前にはカリキュラム，募集要項など公開する予定です。

（記：副校長（教務主事） 小林 淳哉）

～覚書を取り交しました～

退職される先生から一言

令和２年３月をもって，教育・研究をとおし本校の発展にご尽力いただいた２名の先生が，定年退職を迎えられます。退職にあたって寄稿いただきました。

「長い間有難うございました」

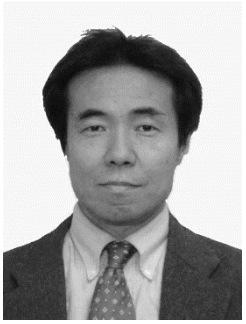
物質環境工学科教授 小原 寿幸

本年度をもって定年退職を迎えることになりました。学生として５年間，教員として 32 年間本校にお世話になりました。これは自分の人生の約６割になります。

37 年間の本校での生活を振り返ってみると,実に多くの方々との出会いがあり，その方々のお力添えでこれまでの人生を大過なく過ごすことができました。これらの方々には，心から感謝を申し上げる次第です。また，私は教員として未熟者でしたが，32 年間の教員生活の間には，多くの学生諸君との出会いがありました（単純に考えても 1,200 人以上)。その多くの方々が社会で活躍しているのを見聞するたびに，これまでの長い期間，函館高専の教育に関わってきたことへの喜びと誇りを感じています。あと２年間再雇用で本校にいますので，定年退職と言われてもピンとこない部分があります。あと２年間はいままでと同じような生活が続くと思われ，定年退職を実感するのは２年後かもしれません。それまでの間，今後，どのような生き方をしていくか考えておきたいと思います。本当に有難うございました。

「ものつくりの達成感」

生産システム工学科教授 森田 孝



私は電気工学科 11 期生として本校を卒業してから，教員として戻ってくるまでの９年間は企業に勤めておりました。企業では，今はもうほとんど使われなくなったカセットテープやフロッピーディスクへ音楽やデータを記録するための磁気ヘッドという電子部品の設計開発を担当していました。特にカセット用磁気ヘッドについては，私たちのグループが開発した製品が大手オーディオメーカに採用され，当時，秋葉原の電気街に行くと，その磁気ヘッドが搭載されたカセットデッキが店頭に並んでおり，中をのぞくとその自分が設計した磁気ヘッドが見えて嬉しい気持ちになったものでした。10 年ほど経って札幌の従兄の家に行ったときに，そのメーカーのカセットデッキがまだ使われており，中をのぞくと確かに私が設計した磁気ヘッドがありました。自分の作った製品を実際にこうして長い間使ってくれる人が身近にもいたことを知り，あらためて社会に貢献できたことを実感することができました。ものつくりの面白さや達成感はこうしたところにもあるのだと思います。学生の皆さんにも，卒業後，こうした思いを感じられるような良い仕事にたくさん巡り合うことができるように願っています。

函館高専地域連携協力会コーナー

「函館高専地域連携協力会」は本校が取り組む活動を支援し，地域連携事業の促進を図り，地域社会の発展に寄与することを目的に設立された団体で，地元函館を中心とした様々な企業が加盟し，日々尽力していただいています。
今回は函館高専地域連携協力会会長の川島様に，会と企業をご紹介いただきます。

株式会社エルフィン

◎設立年月日：平成１２年３月

◎代表者氏名：川島　眞一（機械工学科１１期）

◎函館高専地域連携地域連携協力会と我が社の紹介

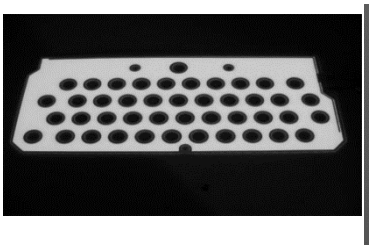
函館高専地域連携協力会は，当初ＯＢを中心にスタートし，現在は函館地域だけでなく約１９０社の会員企業が参加して活動しており，今年度より私も会長を拝命させて頂いています。
主な活動としては，例年３月初旬に開催している会員企業による合同企業説明会や，高専教職員との懇談会，ロボコンをはじめとする各種イベントへの支援等を通じ，学生の皆さんや学校を応援する応援団であると自負しています。

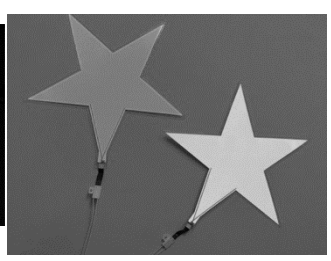
◎我が社の紹介

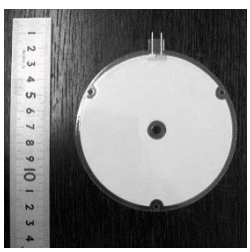
我が社の起源は，平成 4 年に始まった異業種交流グループ「ＥＬ商品開発研究会」から始まりました。当時，製造技術が確立されていなかった無機ＥＬの技術情報の収集・蓄積や試作品による市場調査などを行い，事業化のための技術シーズの探索を行いました。次にこの技術シーズを事業化に結びつけるべく，研究開発を目的に平成 9 年に協同組合エルフ効能を設立し，3 年間の研究開発の成果をもって平成 12 年に無機ＥＬ〔エレクトロルミネッセンス〕の製造及び販売の会社として，産声を上げました。紙のように薄く面全体が発光する光源として産業機械や航空機，船舶や鉄道車両などの計器のバックライトとして採用頂いているほか，柔らかな発光色と薄い形状，発熱がほとんど無いなどの特性を活かしてインテリアや屋外装飾の光源としても採用頂いております。

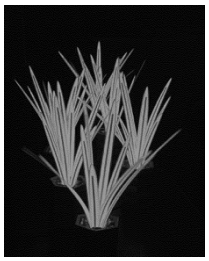
*EL の定義
電気エネルギーが蛍光灯や電球のように熱エネルギーに変換される過程を通らないで直接光のエネルギーに変換される現象。

*用途
時計・医療機器・運輸関係・工業計器・広告類・道路関係・趣味・建物什器・建物関係・自動車・機能利用・デザイン照明・その他









人 事 異 動

人事異動

（　採　用　）

令和元年１２月１日付け

総務課事務補佐員　　垣田　大介

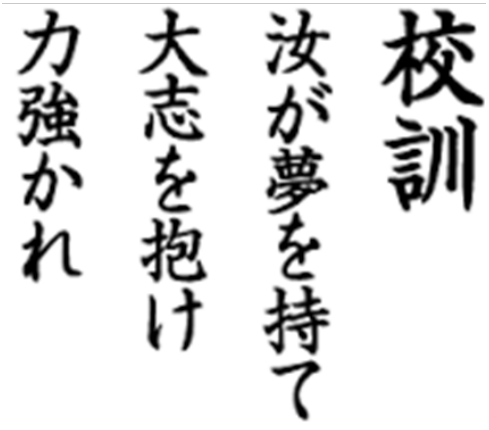
（　配置換　）

令和２年１月１日付け

総務課研究推進係主任　三上　徳洋　（学生課寮務係主任）

学生課寮務係主任　　齋藤　　晃　（総務課研究推進係主任）

（記：総務課人事係）



～フォトアルバム～

5S-M

5S-E

5S-J

5C

5Z

～第５学年の皆さん（卒業研究発表会にて）～

学校だより　第 208 号
発行　函館工業高等専門学校広報委員会
〒042-8501　函館市戸倉町 14 番 1 号
TEL：0138-59-6491　FAX：0138-59-6330